

令和3年度第2回江別市生涯活躍のまち整備事業地域再生協議会会議録（要点筆記）

日 時：令和4年1月26日（水） 15：30～16：30

場 所：江別市民会館37号会議室

出席委員：川上誠一委員、小林孝広委員、新田雅子委員、尾形良子委員、
藤本直樹委員、小田島和平委員、田原久美子委員、岸本佳廣委員、
森田弘之委員、腰原久郎委員、中井和夫委員、菅井美恵子委員
（計12名）

欠席委員：金子正美委員、大川尚委員、三ツ井瑞恵委員（計3名）

事務局：企画政策部近藤次長、健康福祉部伊藤次長、政策推進課堂前課長、
中住主査、鈴木主査、松井主査、山口主任

その他：ココルクえべつ事務局明石コーディネーター、
高橋サブコーディネーター

傍聴者：0名

会議概要

1 開会

2 議事

（1）これまでの地域交流の取組状況

事務局から説明

・資料1（1）今年度の取組経過（抜粋）

資料2（1）これまでの地域交流の取組状況

【質疑】

○川上会長

今年度の地域交流の取組は、新型コロナウイルス感染症により中止や延期になったという報告があったが、昨年、今年と新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、ソフト事業が展開できていたと感じている。

この件について、質問、意見はないか。

○藤本委員

川上会長から話があったとおり、定期イベントや随時イベントを含めてこれまでしっかりと地域交流の取組をされてきた関係者の方の努力に敬意を表したい。

本格オープン以降、家族でふぐのコースを食べたり、風呂やパンなど月に1、2回利用させていただいている。

2点質問がある。

1点目、小林委員に聞きたいが、実際に交流事業に参加されていた高齢者や障がい児の反応や声を教えてほしい。

2点目、事務局に聞きたいが、このような取組を手探りで続けてきて、例えば、情報発信が弱い、新しいイベントの企画力が十分でないなど、把握している課題があれば教えてほしい。

○小林委員

事務局からの説明にもあったが、多世代交流サロンは車で来る方もいるがベビーカーを押して歩いて来る方もいる。近くにこのような場所が出来たことはありがたいという言葉をいただいている。

高齢者については、ココルクえべつで主催した体操やキッチンカーフェスなどのイベントを見て、それをきっかけにサービス付き高齢者向け住宅に入居した方もいるくらいなので、イベント等を楽しんでいる方は多いと思う。新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントを中止せざるを得ない場合には、施設に入居している方や利用している方から、次はいつ、どのような内容で行うのかなど聞かれることも多く、徐々に定着してきていると感じる。一方、今後の課題としては、コロナ禍ではあるが、施設の方、サービス付き高齢者向け住宅の方、子どもなど多様な世代の様々な方が広く関わられるよう、さらに工夫して事業を実施していきたい。

○事務局

新型コロナウイルスの影響を考慮したうえでの実施となったため、当初の予定から変更になった点もあったものの、比較的、地域交流の取組を実施出来たと思っている。今年度の取組としては、まず、拠点地域であるココルクえべつを知っていただく、理解していただく、足を運んでいただく活動を行ってきたが、コロナ禍における事業の展開方法について、試行錯誤したのも事実である。今後の課題としては、参集型のイベントが多いため、来年、再来年もある程度コロナ禍が続くと予想される状況においては、常に感染状況を見ながら、地域交流のあり方について検討していかなければならない。

さらに、今年度オープンして来年度は2年目になるが、まだ知名度が足りないと考えており、さらに効果的なPRを行っていく。また、構想の中ではその波及効果をエリア内から大麻地区に広げていくことをうたっているため、その手法等について来年度以降も考えなければならない。

○川上会長

他に質問、意見はないか。

○中井委員

昨年はコロナ禍で大変な時期ではあったが、これだけの地域交流の取組を

行っていて驚いた。また、住民へのPRについてもチラシの配布や見学会の案内などがあり、大変心強く思っている。自治会や住民に浸透させることにより、機会があればココルクえべつ内の施設にお世話になる方もいると思う。

また、温泉や食堂に行った際は、コロナ禍でも利用者が増えており、住民に浸透していると思う。特に大麻地区の住民には温泉利用料が安いことで大きく効果が上がったと思う。

○会長

意見という形で承る。自治会や地域の方にPRを行うことで、地域の方に更に利用していただけるという提案だった。

他に質問、意見はないか。

○各委員

(なし)

(2) 令和4年度の地域交流の取組予定

事務局から説明

・資料3 (2) 令和4年度の地域交流の取組予定

【質疑】

○森田委員

去年参加したキッチンカーフェスは楽しかった。当日はあそびの会、和のくらしタイムスリップ、「たべる」をつくるを合わせて行っていたが、先ほどの報告では2,000人の方が来ていたとのこと。子どもから高齢者まで一緒に楽しんでいた印象が強く残っている。コロナ禍の状況での飲食などには規制もあると思うが、可能ならば、来年もキッチンカーフェスなどの大きなイベントも検討していただきたい。

次に、小林委員からも話があったが、サービス付き高齢者向け住宅などの入居者と地域住民との交流の場を設けていただきたい。小さな子どもとの交流はあると思うが、ココルクえべつに住んでいる方と実際に会って交流が出来るものがあると良いと感じた。交流広場などで独自の夏祭りの開催など、皆と一緒に出来るものがあると良いと思う。

1つ質問だが、ココルクえべつの自治会は独立しているものなのか。またはどこかの自治会に所属しているのか。

○小林委員

自治会については、サービス付き高齢者向け住宅の入居者で、独自の自治会をつくる準備をしている。サービス付き高齢者向け住宅の入居者と私たちが一緒にココルクえべつを盛り上げていきたいと思っている。

また、近隣の自治会とのつながりとして、北翔大学の協力のもと介護予防の実践演習を2月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で3月に変更していただきたいとお願いをしたところである。この実践演習は、まず、サービス付き高齢者向け住宅の入居者を対象として行った後、近隣の自治会の方へ案内をさせていただき予定であった。地域の介護予防を、ココルクえべつで大学生の力を借りて取組んでいくほか、サービス付き高齢者向け住宅の自治会と近隣の自治会とのつながりも、今後深めていきたいと思っている。

○川上会長

自治会については、サービス付き高齢者向け住宅の入居者だけで構成するものを作られるということだった。

合わせて、森田委員からキッチンカーフェスの話もあった。来年度の話になるが、可能であればぜひお願いしたい。また、入居者との交流の場についても対応をお願いしたい。

他に質問、意見はないか。

○中井委員

1点目、大学との連携の中で出て来る「ジモガク」とは何か。大抵の人は分からないので分かりやすく知らせてほしい。

2点目、ブックストリートをあのような場所で行うことは非常に良いことだと思う。子どもが参加出来る楽しいイベントだと思うので、来年度も続けていただきたい。

3点目、包括支援センターの方はどのくらい見学会に来ているのか。

○事務局

1点目、「ジモガク」は資料2の説明でも触れさせていただいたが、江別市、芦別市、赤平市、三笠市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町を活動地域として、その8市町の中で行うイベントなどと江別市内4大学の学生をマッチングする取組である。ホームページなどで期間を設けて募集を行い、応募していただく形で、大学生の活躍の場として取組んでいる。

○小林委員

3点目、大麻の地域包括支援センターの方が見学に来られている。地域包括支援センターでは介護予防について様々な取組を行っており、見学に来られた時に、介護予防の取組ができる場を、ココルクえべつの近隣で探していると言っていた。地域包括支援センターの方がココルクえべつの場所を使い、介護予防の取組を行っていく予定で話し合いをしているところなので、そのような部分で連携が出来ると思っている。

○川上会長

2点目は、ブックストリートは良いイベントなので来年度も継続してほしいという話だった。

他に質問、意見はないか。

○尾形委員

障がい者就労環境の充実の取組（新規）には「平成23年度から行っている高等養護学校の誘致実現に向け」と記載がある。これまで長期間誘致実現に向けて何かしてきたのだと思うが、今になって新規の事業の提案、企画を考えているのは、提案があるところに高等養護学校の行く先を決めるというコンペなどがあるからなのか、どのような状況なのか知りたい。

○事務局

高等養護学校の誘致について経過を含めて説明させていただく。

以前は、ココルクえべつの隣地に札幌盲学校があったが、平成27年3月に閉校した。平成23年より、この場所に高等養護学校を設置するため、江別市をはじめ関係団体を挙げて誘致活動を継続しており、年に数回、北海道へ誘致のお願いをしている。さらに、道議会でも誘致について全会一致で採択をいただいているが、現状誘致には至っていない。

構想では高等養護学校の誘致後に生涯活躍のまちの整備という流れだったが、様々な事情の中で、先にココルクえべつを整備し、それを起爆剤に高等養護学校を誘致するという方向性とした。

ココルクえべつの隣地に高等養護学校が設置されることにより、高等養護学校としても様々な教育上のメリットがあると考え。また、ココルクえべつとしても、高等養護学校の生徒がエリアを訪れることで、活性化されるという相乗効果が期待される。その中で、来年度から障がい者就労支援の事業を実施する予定であるが、これを行うことですぐに高等養護学校ができる訳ではない。江別市としては、北海道にお願いをすることも重要だが、市内の障がい者を取り巻く様々な環境整備、環境の充実を図っていくことも必要だという視点で事業に取組もうとしている。

○川上会長

高等養護学校については、平成23年から誘致活動を続けてきている。現段階では事務局から説明のあったとおり、実現していない状況である。しかし、共生のまちの一角として実学の場面の形が整った状況も合わせて、更なる誘致活動に向けて頑張っていきたいという趣旨で理解していただきたい。

他に質問、意見はないか。

○各委員

(なし)

3 その他

○川上会長

各委員から質問、意見はないか。

○小林委員

机上配付している「ココルクえべつから 営業時間等の変更のお知らせ」について説明させていただく。

1点目、温泉は、大麻地区住民に半額で提供していた割引を、1月初めから一旦終了させていただいた。その理由のひとつとして、現在温泉の掘削作業中であり、現在の温泉は清田区にあるアンデルセン村から週2回運んだうえで運営しているため、運んだ温泉は冷たい状態である。その状態から沸かすと膨大なガス代がかかってしまうため、終了せざるを得ない状況である。また、温泉が出て運営が安定した後に、その取扱いについて考えていきたい。

2点目、レストラン「こう福亭」は、予約制での運営となる。コロナ禍でもあり、当初からふぐのコースは5日前までに予約をいただいていたが、利用する人の多くは予約して利用されていたことから、予約をいただいた時のみの営業に変更している。

3点目、営業時間の変更については、パン工房「あさのわ」は8時から14時30分が9時30分から17時、天然温泉「ココルクの湯」は7時から20時が10時から22時、レストラン「開拓うどん」は11時から平日14時30分、土日17時が土日も平日と同様に11時から14時30分、レストラン「こう福亭」は予約のみの営業に変更している。合わせて、レストラン「開拓うどん」については、1月11日から定休日を設けている。

レストラン、パン工房については、安い料金である程度のクオリティをもって運営したいと思っているので、パンはパン職人、うどんは和の調理師を配置している。しかし、この場所は就労継続支援A型事業所なので、障がい者がしっかり活躍してほしいということから、障がい者の働ける環境に配慮した営業時間の変更を行った。

温泉については、7時から利用者がいたが、8時から10時の間は全く利用がなく、逆に営業終了時間の20時には、まだ人がいても退出をお願いすることもあったので、利用実態に合わせて営業時間の変更をさせていただいた。中井委員からも温泉の話が出ており、半額だということを理由に毎日のように利用させていただいた方もいるので、私どもも復活させたいと考えているということを理解していただきたい。

○川上会長

この件について、質問、意見はないか。

○森田委員

私も温泉、あさのわ、開拓うどんなどを利用させていただいていた。温泉の

半額が終わることは大麻地区住民として残念である。あさのわのパンも値段が少し上がったが、他メーカーも含めて上がっているのでやむを得ないと思っている。営業時間が長くなり、利用しやすくなると感じている。

1点質問だが、温泉は出そうなのか。

○小林委員

入口付近にやぐらを立て、今日現在で780mまで掘っている。掘る深さは1,000mから1,200mを想定しており、掘削作業も最後の段階ということから、今後1週間から2週間で温泉が出る予定だと聞いている。

○川上会長

障がい者の就労支援施設の施設内でパン工房やレストランが運営されている。障害のある方が勤めて日々頑張っていてパンなど作り、接客をしているので、協議会の委員においても足を運んでいただきたい。

他に質問、意見はないか。

○各委員

(なし)

○川上会長

事務局から連絡等あるか。

○事務局

次回の協議会は来年度を予定している。事務局で検討の上改めて連絡する。

4 閉会